

**(仮称) 足利スマートIC
及び
7丁目大前線等の
整備に関する説明会**



スマートインターチェンジとは

スマートインターチェンジとは…

- 高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリアから乗り降り可能なインターチェンジ
- 通行可能車両をETC搭載車に限定することで、料金所を簡易なものにすることができることから低コストで導入が可能

出流原スマートIC



水戸北スマートIC



NEXCO東日本提供

スマートインターチェンジの接続形式

1 SA・PA接続型

- サービスエリア、パーキングエリアを一般道と接続するもの
- 既存の施設を活用するため、比較的容易にアクセス路の確保が可能

2 本線直結型

- 高速道路本線へアクセス路を直接接続するもの
- 高速道路本線に加速・減速車線を追加設置する必要がある

-half IC

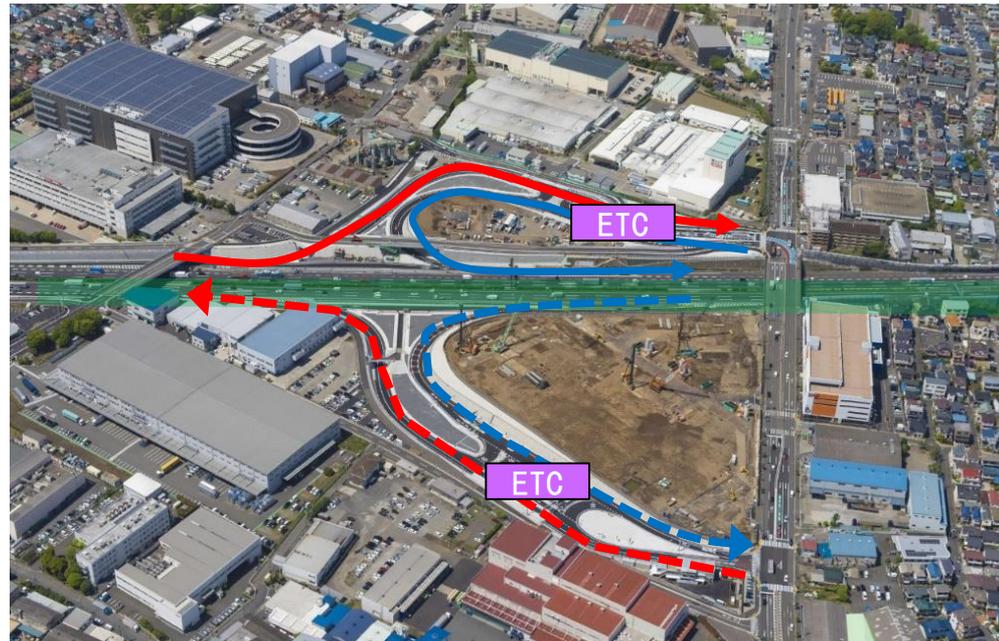


出典：浜松市HP

※half ICのイメージとしてTsurumikami Smart ICを掲載していますが、Tsurumikami Smart ICはフルICとして整備されています。

フルIC

本市スマートICの接続形式



出典：綾瀬市HP

スマートインターチェンジの整備状況

全国

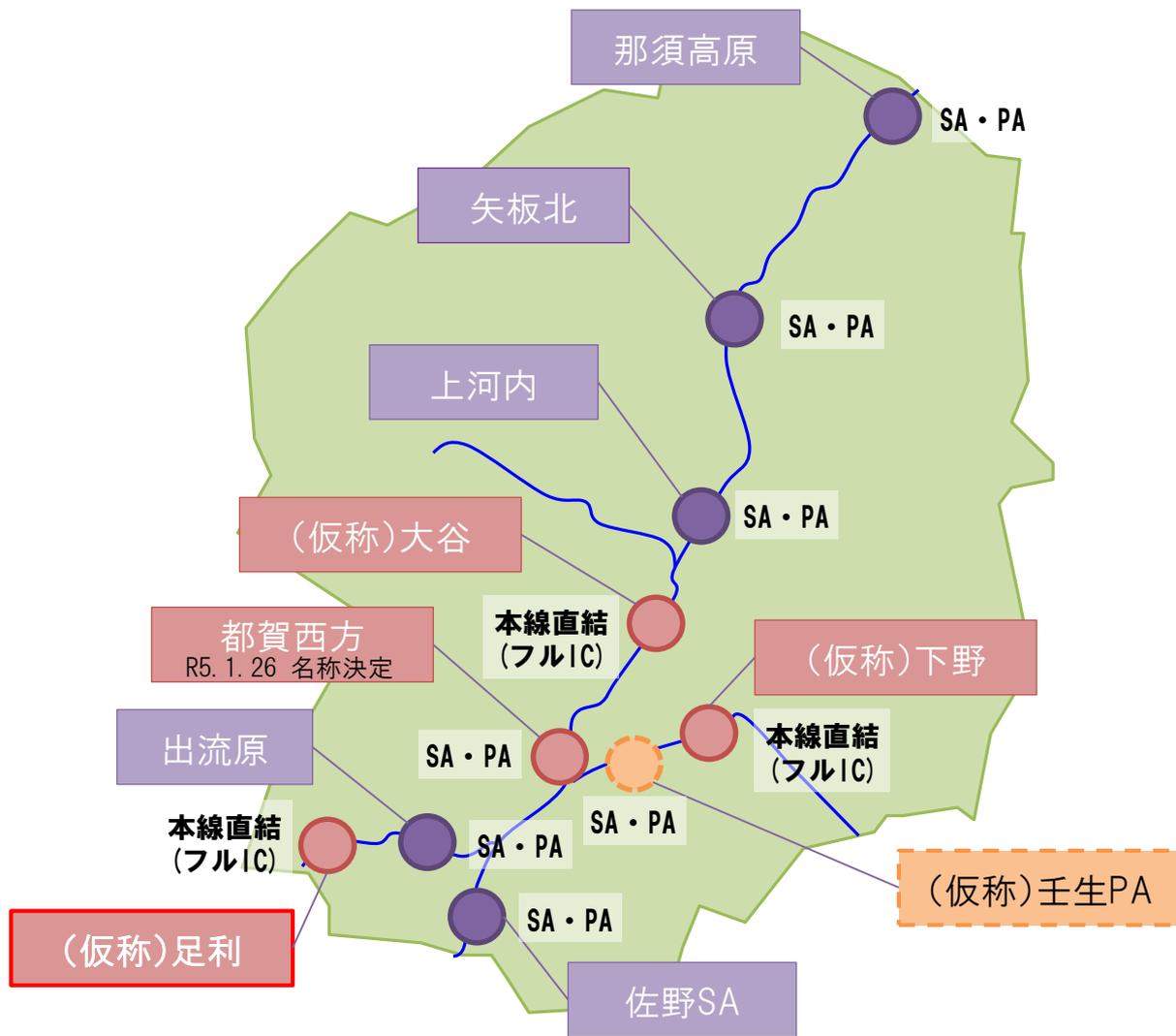
・ 開通箇所 150箇所

関東地方

・ 開通箇所 28箇所

栃木県

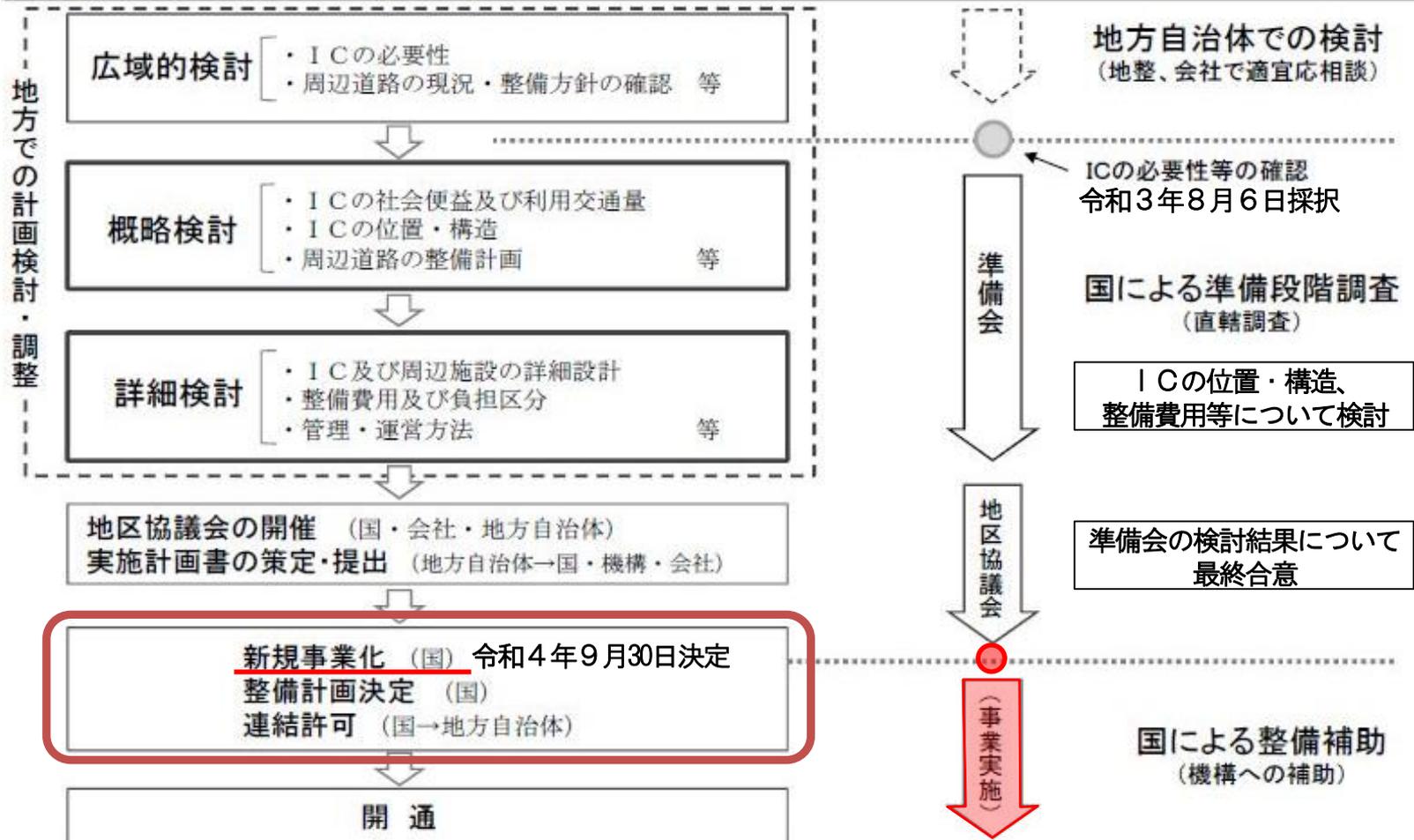
・ 開通箇所 5箇所
・ 事業中 4箇所
・ 準備段階調査 1箇所



令和4年9月30日現在

スマートIC事業のながれ

- スマートICの準備段階(地方での計画検討・調整段階)において、国として必要性が確認できる箇所等について、箇所を選定し、国が調査(直轄調査)を実施(準備段階調査)。
- 準備段階調査における準備会での検討や調整が整い、関係機関で構成される地区協議会で決定された実施計画書が提出された箇所につき新規事業化。



スマートICの整備効果

整備効果 アクセス性向上による産業活性化、定住人口の増加

- ・スマートICの整備により、移動時間の短縮が図られ、利便性が向上することで、地域産業の活性化や定住人口の増加が期待されます。さらに新たな経路が確保されることで中心市街地における交通の分散が期待されます。

山前小学校付近から足利ICまでの所要時間が**6分短縮**

現況 約15分

整備後 約9分

三重小学校付近から足利ICまでの所要時間が**12分短縮**

現況 約19分

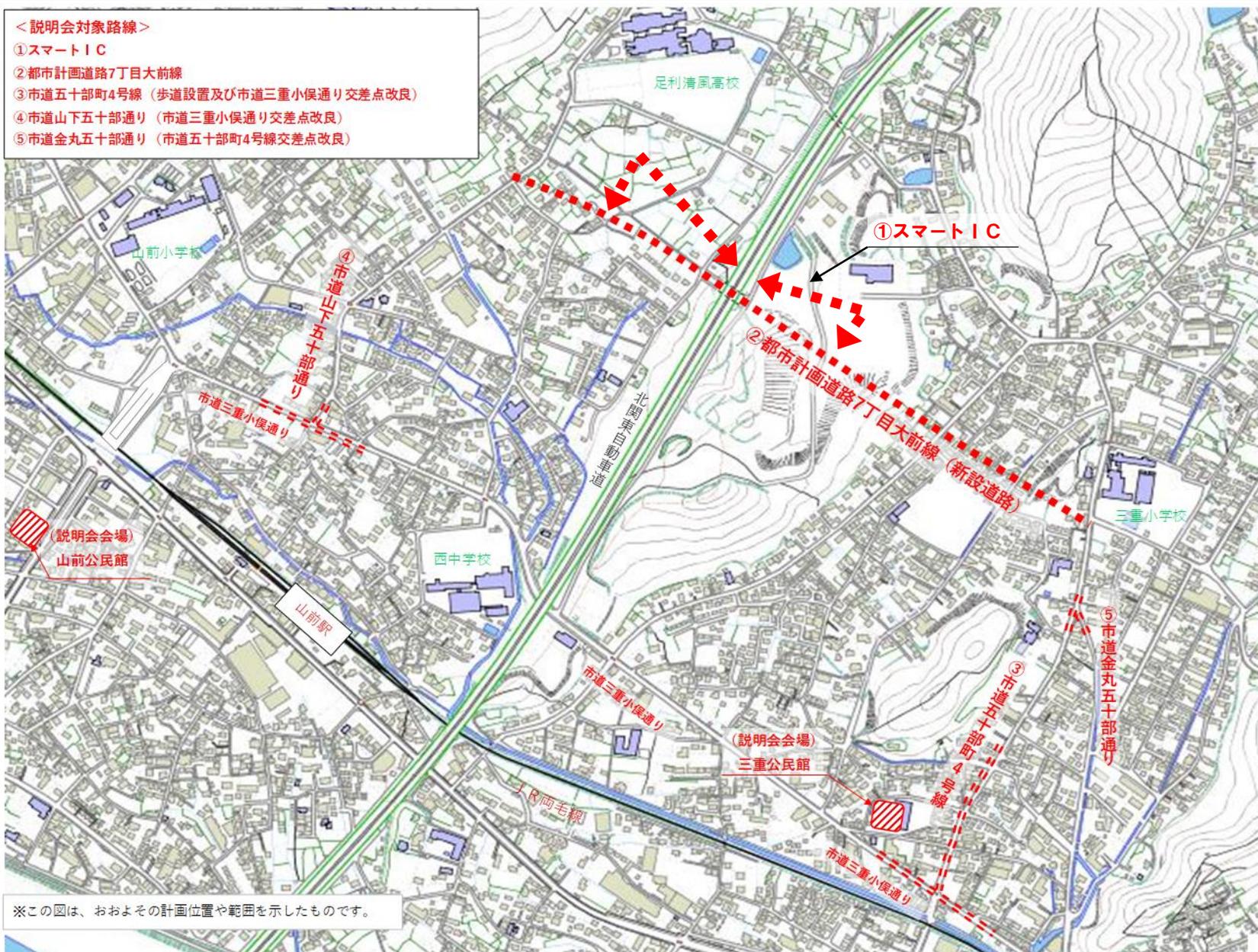
整備後 約7分



令和4年9月30日付け国土交通省記者発表資料「スマートインターチェンジの高速道路会社への事業許可および準備段階調査着手箇所について」の一部を加工

スマートICの設置予定位置

- < 説明会対象路線 >
- ① スマートIC
 - ② 都市計画道路7丁目大前線
 - ③ 市道五十部町4号線 (歩道設置及び市道三重小保通り交差点改良)
 - ④ 市道山下五十部通り (市道三重小保通り交差点改良)
 - ⑤ 市道金丸五十部通り (市道五十部町4号線交差点改良)



※この図は、おおよその計画位置や範囲を示したものです。

今後の事業の進め方

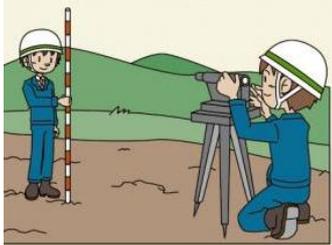
① 説明会①

前回の説明会(R3.11実施)



- ・事業の概要等について説明

② 現地調査・概略設計



- ・検討地域の地形を調査
- ・道路のルートを検討

③ 説明会②

今回の説明会



- ・道路のルートや構造物などの説明

④ 測量・詳細設計

R5年～R6年



- ・道路のルートに合わせた詳細な測量
- ・道路や構造物の設計を実施

⑤ 説明会③



- ・交差点の形状や道路幅について説明

⑥ 境界確認・建物等の調査

R6年～予定



- ・取得する用地面積を算出



- ・立会いのもと境界を確認
(買収範囲を確認)

⑦ 用地説明・交渉(個別)



- ・用地補償の説明
- ・用地補償について交渉

⑧ 工事

⑨ 完成